

ボンネットスイッチ(別売)を取り付ける場合

ボンネットスイッチ(別売)の取り付けを行うことにより、ボンネットが開いているときのリモコンでのエンジン始動が出来なくなり、エンジンルーム内での各種作業中の安全を確保出来ます。出来るだけボンネットスイッチの取り付けを行って下さい。取り付けに関しては、ボンネットスイッチに付属の取扱説明書をよくお読み下さい。

ボンネットスイッチ(別売)取り付けとドアスイッチ配線の両方を行う場合

ボンネットスイッチ(別売)取り付けとドアスイッチ配線の両方を行うことで、ボンネットが開いたり、ドアが開いたりしているときは、エンジンが動作しないよう安全確保が出来るようになります。



安全センサーケーブルの茶色線は、ボンネットスイッチとドアスイッチの検出を併用するようになっております。両方を配線するには別途エレクトロタップ*を1個ご用意頂くことになりますので、あらかじめお買い求め下さい。*【推奨品:自動車用低電圧線(AV線)0.5mm²サイズ適応品】

ステップ1

車の運転席側ドアスイッチ配線をして下さい。

19ページの「ドアスイッチ配線を行う場合」の作業をステップ2まで行った後、以下の作業を行って下さい。

ステップ2

ボンネットスイッチを取り付けます。

ボンネットスイッチ付属の取扱説明書をよく読み、エンジンルーム内のボンネットスイッチ設置・取り付け作業まで行って下さい。

ステップ3

安全センサーケーブルの茶色線を接続します。

ボンネットスイッチの茶色線をグロメット等を利用してエンジンルーム内から車室内へ引き込み、先端のギボシ端子部をニッパ等でカットします。すでにドアスイッチ配線をした安全センサーケーブルの茶色線にご用意頂いたエレクトロタップ等で接続します。



接触不良が起きないように確実に取り付けて下さい。ボンネットスイッチ検出がうまく行われない場合があります。なお、エレクトロタップ部は、防水のためテーピングをして下さい。

ステップ4

安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部(CN2)に接続します。

以上でボンネットスイッチとドアスイッチ配線作業は終了です。

リモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けたときおよびボンネットを開けたときにエンジンが停止することを確認して下さい。



- ・ボンネットスイッチとドアスイッチ配線を併用した場合、ボンネットを開けると、半ドア警告灯およびルームランプが点灯するようになります。これは本機が車側の安全検出を行う回路により点灯するものであり、異常ではありません。
- ・整備等で長時間ボンネットを開けたままにする場合にはルームランプのスイッチを切して下さい。

オプション品(別売)のご案内

「適応車種一覧表・EGSシリーズ」をよく確認の上、必要に応じてオプション(別売)をご使用下さい。

●ボンネットスイッチ

車のボンネットが開いているときに、リモコンでのエンジン始動が出来なくする安全装置です。

●日産キーロックアダプター

一部の車種でターボタイマーの作動中、キーが抜けなくなるのを防止します。
(中継ケーブルを使用しない車種にはご使用出来ません。)

●オートライトアダプター

オートライト装着車の一部車種で、ライトポジションがオート状態のままで問題なく使用出来るようになります。

●ターボタイマーストール防止アダプター

一部の車種でキーをOFFにし、ターボタイマーを作動させる際、インジケータランプが一瞬点灯または点灯したままとなったり、エンジンがストール(停止)してしまうのを防止します。
(中継ケーブルを使用しない車種にはご使用出来ません。)

●イモビアダプター

一部のイモビライザー搭載車で、イモビライザー機能を損なわずエンジンスターターを取り付けることが出来るようになります。